

きほく通信

第34号
2013年
3月7日
発行

難病
患者家族会
きほく

【会 長】 神森 和子
紀の川市中三谷
【相談室】 0736 (77) 5161
【事務局】 〒6496612 紀の川市北浦371
森田方 0736 (75) 4413

神森和子会長講演

3月5日

3月5日、那賀総合センターにおいて、きほく会長の神森和子さんが、紀の川市青少年健全育成推進事業の一環として「患者として、家族として…生きる」と題して約100名の聴衆を前に講演しました。



〈講演内容の主旨〉

『私が育った家には約束事がありました。人に利用されても、人を利用してはいけない。何ごとにも言葉と心を添える。』

信用は無限の宝。
信用される人間になれ。
掃いて捨てられる人間ではダメ、拾ってもらえる世の中役に立つ人間になれ。
などです。

お母さん？

毎日の食卓に手作りのお料理は並んでいますか？
お母さんがアイロンをかけた服を着せてますか？
親子の会話をメールでしていませんか？
子どもの手を引いて歩いていきますか？

あなたが年老いたとき、その子に手を引かれるのです。
心を込めた言葉で叱っていますか？
思いを込めた言葉で子どもを褒めていますか？

時代が進んでも、人間の基本を想い出してください。自由をはき違えないでください。

私の娘は45歳で未婚です。
私の子育てが原因だとは思いませんが、病名が四つもついた病人になりました。でも、入院もせず、つい先日まで働いていました。が、体調悪く退職し、これからは絵の勉強、小鳥のこと、月や星など宇宙のことを勉強すると言っています。

娘は8歳のころに発症しましたが、「難病」と診断してもらったのがそ

講演会

●紀の川市青少年健全育成推進事業

あなたが抱えていること、あなたが気が付かないこと、自分には関係ないと思っていること、それは…

子育て中の人、卒業した人、みんなでお話聞いて、暖かいもの持って帰ろうよ。

紀の川市難病患者家族会きほく会長
講師 **神森和子** さん (紀の川市在住)

広報「紀の川」2007.9月号・2008.3月号で紹介されました。難病（にこうびん）病の救世主としての歩みを満ちて自己開花されています。

※当日「鳥のイラスト本の実験」数ちゃん作が私達に知らせているお話もあります。
※団体・学校の枠組、ご近所を思い合わせてお話し下さい。お持ちしてあります。

2013年 **3月5日** 曜

紀の川市那賀総合センター PM7:30-9:00
※駐車場は名手川河川敷と総合センター前をご利用下さい。

主催：紀の川市青少年健全育成推進協議会那賀支部
後援：紀の川市教育委員会

れから30年目のことです。
子どもは登校拒否にもなりました。その原因は「シエーグレン症候群」の症状である、唾液が出ないため、給食が食べられなかったのです。
いじめられ、泣き虫だった娘は、いま命あるもの全ていとおしいと思う、優しい娘になりました。そして皆さんから「あっちゃんと話していると癒やされるんよ」と言われるようになりました。そんな娘が書いた絵本「鳥のレストラン 木の实軒」は飛べない鳥のお話です。
私はこの子どもさんであってもどんな場所でも、悪いことは悪いと注意します。良いことはよいと褒めます。このことはとても大切なことだと思います。若しお母さま方に特にお願いします。』